

司式：大隈道雄
奏楽：山田絵里

前奏：「まさに時いたりなば」(H. シャイデマン)

招詞：沈黙してあなたに向かい、賛美をささげます。シオンにいます神よ。
あなたに満願の献げ物をささげます。(詩 65:2)

讚美歌 210「来る朝ごとに」

交読詩編 92 編

01【賛歌。歌。安息日に。】

- 02 いかに楽しいことでしょう/主に感謝をささげることはいと高き神よ、御名をほめ歌い
- 03 朝ごとに、あなたの慈しみを/夜ごとに、あなたのまことを述べ伝えることは
- 04 十弦の琴に合わせ、琴琴に合わせ/琴の調べに合せて。
- 05 主よ、あなたは/御業を喜び祝わせてくださいます。わたしは御手の業を喜び歌います。
- 06 主よ、御業はいかに大きく/御計らいはいかに深いことでしょう。
- 07 愚かな者はそれを知ることなく/無知な者はそれを悟ろうとしません。
- 08 神に逆らう者が野の草のように茂り/悪を行う者が皆、花を咲かせるように見えても/永遠に滅ぼされてしまいます。
- 09 主よ、あなたこそ、永遠に高くいます方。
- 10 主よ、あなたに敵対する者は、必ず/あなたに敵対する者は、必ず滅び/悪を行う者は皆、散らされて行きます。
- 11 あなたはわたしの角を野牛のように上げさせ/豊かな油を注ぎかけてくださることでしょう
- 12 わたしを陥れようとする者をこの目で見/悪人がわたしに逆らって立つのを/この耳で聞いているときにも。
- 13 神に従う人はなつめやしのように茂り/レバノンの杉のようにそびえます。
- 14 主の家に植えられ/わたしたちの神の庭に茂ります。
- 15 白髪になってもなお実を結び/命に溢れ、いきいきとし
- 16 述べ伝えるでしょう/わたしの岩と頼む主は正しい方/御もとには不正がない、と。

朗読聖書①イザヤ書 42:1-9

◆主の僕の召命

- 01 見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。わたしが選び、喜び迎える者を。彼の上にわたしの霊は置かれ/彼は国々の裁きを導き出す。
- 02 彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせない。
- 03 傷ついた葦を折ることなく/暗くなってゆく灯心を消すことなく/裁きを導き出して、確かなものとする。
- 04 暗くなることも、傷つき果てることもない/この地に裁きを置くときまでは。島々は彼の教えを待ち望む。
- 05 主である神はこう言われる。神は天を創造して、これを広げ/地とそこに生ずるものを繰り広げ/その上に住む人々に息を与え/そこを歩く者に霊を与えられる。
- 06 主であるわたしは、恵みをもってあなたを呼び/あなたの手を取った。民の契約、諸国の光として/あなたを形づくり、あなたを立てた。
- 07 見ることのできない目を開き/捕らわれ人をその枷から/間に住む人をその牢獄から救い出すために。
- 08 わたしは主、これがわたしの名。わたしは栄光をほかの神に渡さず/わたしの栄誉を偶像に与えることはしない。
- 09 見よ、初めのことは成就した。新しいことをわたしは告げよう。それが芽生えてくる前に/わたしはあなたたちにそれを聞かせよう。

朗読聖書②ルカによる福音書 9:28-36

◆イエスの姿が変わる

- 28 この話をしてから八日ほどたったとき、イエスは、ペトロ、ヨハネ、およびヤコブを連れて、祈るために山に登られた。
- 29 祈っておられるうちに、イエスの顔の様子が変わり、服は真っ白に輝いた。
- 30 見ると、二人の人がイエスと語り合っていた。モーセとエリヤである。
- 31 二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。
- 32 ペトロと仲間、は、ひどく眠かったが、じっとこらえていると、栄光に輝くイエスと、そばに立っている二人の人が見えた。
- 33 その二人がイエスから離れようとしたとき、ペトロがイエスに言った。「先生、わたしたちがここにいるのは、すばらしいことです。仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」ペトロは、自分でも何を言っているのか、分からなかったのである。
- 34 ペトロがこう言っていると、雲が現れて彼らを覆った。彼らが雲の中に包まれていくので、弟子たちは恐れた。
- 35 すると、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け」と言う声が雲の中から聞こえた。
- 36 その声がしたとき、そこにはイエスだけがおられた。弟子たちは沈黙を守り、見たことを当時だれにも話さなかった。

祈祷

天にいらっしゃいます父なる神さま、急に朝晩の冷え込みが厳しくなりました今日この頃ですが、夫々の生活の場から、私たちをこのように礼拝に召してくださいましたことを感謝致します。

私たちが、日頃、生活に追われております時にも、また不安と孤独の中に降ります時にも、私たちを見守り支えてくださいますありがとうございます。また、週に一度、こうして礼拝を覚え、あなたに感謝し、賛美をもって御言葉を聴き、祈りを共にできますことを感謝致します。

どうか、私たちの罪を取り除いてください。私たちが少しでもあなたに近づくことが許されますように。

私たちの願い、希望、祈り、尽きませんけれども、どうか私たちの私利私欲を取り除き、この世に平和が来ることを祈り願うことが出来ますように。

私たちが隣人^{となりびと}のために仕え、どうか困っている方々、不安と孤独の中にいる方々のために尽くし、また祈ることが出来ますように。

今日、この場を覚えながらここに集い得なかった友のためにも祈ります。どうか夫々の場であって、あなたが光照らし導いてくださいます。

これから御言葉を取次いでくださいます鮎川先生を、どうかかづけ、励ましてください。聴く私たちが、どうかあなたの御言葉を恵みとして、糧として受け取ることが出来ますように。

このお祈りを、主イエス・キリストの聖名を通して、御前にお献げ致します。アーメン。

讚美歌 141「主よ、わが助けよ」

説教：「御光の中で」

鮎川健一

暦の上では早や立冬を迎えました。今年もあと二ヶ月、ここまで与えられた日々を思い起こし、主の恵みに感謝を覚えるものです。キリスト教会は公の礼拝を守り、福音を正しく宣べ伝える使命と責任において、三位一

体にある唯一の神を信じ、証しし、主の再び来たり給うを待ち望みつつ、神に应えてゆきます。主の恵は十字架にあり、それは真なる御国へと向かう栄光への道です。この道は主御自身が身をもって私たちのために開いて下さった道であり、“わたしに従いなさい。”と言って、私たちに先立って歩んで下さる道です。

主は愛弟子のペトロの告白を受けて、御自身の十字架と復活の予告をされました。そこでは“主御自身が苦しみを受け、殺される(ルカ9:22)”という予告のみならず、“十字架を背負って、わたしに従いなさい。(同23節)”と告げられました。この言葉が一体何を意味しているのか、弟子たちさえも理解できないうでいました。主の言葉は、御国に至る栄光の命に導くものです。しかし弟子たちには、それが理解できなかったのです。弟子たちは、まだ主の復活を知らなかったからに他なりません。避けられない十字架への道、しかし、その後続く復活の栄光。この正反対の、むしろ大逆転の道を主は示されたのです。しかもそれは主イエスだけの道ではなく、弟子たちに、そして私たちのために開いて下さった道です。

そこで主は、弟子の中からペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人を選んで山に登り、共に祈りました。主は復活の栄光に輝く御姿、真の神の子としての御姿を弟子たちに顕わされました。『山上の変貌』と伝えられるこの場面、真っ白に輝く服に身を包んだ主イエス、それは主が天に属する存在であることを示しています。

そこには旧約を代表するモーセとエリヤが共にいました。旧約聖書は『律法と預言の書』と言われ、律法を代表する人としてのモーセ、預言を代表する人としてのエリヤです。この三人は何を話していたのか。31節には、「二人は栄光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。」とあります。これはルカだけが記していることで、マルコとマタイにはありません。“モーセとエリヤと主イエスが、エルサレムでの十字架における死について話していた”というものです。それは“主の十字架が、旧約以来の神の救いのご計画の成就である”ということの意味しています。

ここで屁理屈を言う人は、“ペトロたちは他の二人がモーセとエリヤだとどこで判ったのか”と言います。こういう問いに答えなくても済みますが、あえて考えてみます。私たちはやがて天の国に招かれるでしょうけれども、そこで主イエスを捜す必要は無いということです。むしろ探し出せないでしょう。主の御顔も御姿も直接見ていないからです。たとえどんなに感動を与える絵画を見たとしても、画家の創造創作の範疇でしかないからです。しかしある意味では、“この方が主だ”と判るとも思えます。それは、“信仰が正しくあれば、主から近づかれる”ということです。『天の国』とは、そうある所と聖書の理解から受け止めます。だからモーセとエリヤも判ったと言えます。

そこに居合わせた三人の弟子たちは、まさに聖なる体験、神体験と言うべきものをしてしまったのです。神の御子としての本当のお姿、天の国を垣間見てしまったからです。モーセは千数百年も前、エリヤは八百年も前の人です。ここで弟子たちは、栄光に輝く永遠の命に与っている人と出会ってしまったのです。これはまさに主イエスの復活に出会う前の、前振りにも思われます。このような栄光の命があることを、弟子たちはこの時、初めて知ったのでしょ

う。ペトロは驚き喜び興奮して、「仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」と言いました。しかし後にペトロは、この時のことを思い起こして、書簡に記しました。少し長いです

が引用します。

わたしたちの主イエス・キリストの力に満ちた来臨を知らせるのに、わたしたちは巧みな作り話をういたわけではありません。わたしたちは、キリストの威光を目撃したのです。荘厳な栄光の中から、『これはわたしの愛する子。わたしの心に適う者』というような声があつて、主イエスは父である神から誉れと栄光をお受けになりました。わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意してください。(Ⅱペト1:16-19)

ペトロにとってこの時の出来事は、永遠の神の国を確信させ、福音を力強く宣べ伝えていく根拠となりました。神が弟子たちに主の栄光のお姿を見せられた理由もそこにあります。神はモーセとエリヤの姿を雲の中に包むと、雲の中から、「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け。」と言われました。「これに聞け」とは、「このわたしの子であるイエスに聞け」ということでしょう。神の御子なるイエスが弟子たちに告げられたことこそ、「自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」(マタ16:24)ということだったので。つまりここで神は弟子たちに対して“この私の愛する子であるイエスが歩む十字架への道は、復活の命へと続く。そしてあなた方も、この主イエスに聞き、従い、十字架を背負って行くなれば、まことに栄光に輝く、永遠の命へと至る。”そう神は弟子たちに告げられたのです。

山上の変貌の場面は、他の二つの場面と重なります。主が弟子たちと共に祈られたゲツセマネの園での主イエスの祈りの場面です。マタイやマルコ福音書では、この時もペトロ、ヤコブ、ヨハネの三人でした。そして主は次の日の十字架を思い、血の滴りのような汗を流し、切に祈りました。「父よ、御心なら、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに行ってください。」(ルカ22:42)と。この場面は、今朝の箇所に描かれる山上の変貌の時の祈りの姿とは、正反対と言ってもよい姿でした。まるで銀板写真のネガとポジのように別の角度から捉えている、しかしどちらも真実であること。それは真の神の子としての栄光の姿と、真の人の子としての苦しみ姿、復活の栄光の命と十字架の陰の死、この姿が対になって、真の神にて真の人なる救い主、キリスト・イエスの姿が浮かびます。

もう一つは、主がバプテスマのヨハネから洗礼を受けた場面です。天から「あなたは私の愛する子、わたしの心に適う者。(ルカ3:22 並行)」という声が響きました。この山上の変貌の時の神の言葉と同じです。主が洗礼を受けられたのは、救い主としての公の生涯、十字架への歩みを本格的に始められたことにあります。そしてこの山上の変貌の時は、この直後(9:51)から主はエルサレムへと向かわれました。そこで一体、この山上の変貌の場面と主の受洗の場面とは、どんな関係があるのでしょうか。まず何故、主は罪人と共に洗礼を受けられたのかですが、それは私たち罪人と共に歩まれるためであり、私たちが洗礼を受け、キリストの命に結び合わされるためでした。それは何も私たちが誉れを受けるためということではなく、私たちから主に向かったのでもなく、主から近づいてこられ、私たちは主に従うものとして捉えられた。それは実に、私たちが自分の十字架を背負って主に従って行くことが出来る秘儀がここにあるからです。正直、誰も苦勞などしたくない。重く痛く曝し者の十字架は背負いたくないと思うでしょう。しかし洗礼を受け、キリストの命に結ばれることによって、そのようなこの世的な幸、充足感、希望を求める頑な心が、キリストに捉えられるところ

で砕かれ、キリストと共にキリストの足跡を歩んでいきたいと思うように変えられるのです。

重ねて言いますと、それは投げやりや妥協しての思いではなく、洗礼を受けることにより、御霊が注がれ、キリストが私たちの中で生きて働き始められるからこそ、信仰者なる豊かな歩みになるということに他なりません。主イエスに聞き従うということは、ここからしか始まりません。心の頑なさ、主の言葉を何度聞いたとしても、教会生活が何年あろうとも、聖書の言葉が、心底、正しい御言葉の取次ぎであったとしても、自分にとって辛いこと嫌なこと聴きたくない究極的な選択を迫られるものであるならば、取って付けたような理由を付けて逃げたくなるものでしょう。もう聞きたくない、あれは嘘だ、嘘かどうかはその場では分かりませんが、語り継ぐ側の責任も重大ですが、真実なることは、何度も重ねて聞いても聞かない聞こえない有様があるということです。イザヤの告げた言葉(42:20)に重なりますが、そのような頑なな人間が、洗礼という恵みに与る中で変えられます。“変えられてしまう”と表現する方が合致します。そしてそこに生まれるのが、日々自分の十字架を背負って、キリストに従おうとする、栄光への歩みと変えられるものです。

私たちは十字架への歩みが、神の御栄光へと続くことを知っています。そして更には、十字架が復活へと続くことを知っています。それ故に、日々の歩みの中で、神のため主イエスのために自分を献げて生きるという、十字架を背負って歩むことへの一步を踏み出すことが出来るのです。既に栄光のキリストが御霊にあって私たちの中に宿っていて下さっているからこそできることです。実際、私たちは無理に謙遜にならなくても、取るに足りない小さな者であり罪深い者であることは事実です。しかし私たちは主に捉えられて洗礼を受けた者です。それによって、変えられない者から変えられる者へと促され、キリストと結び合わされたのです。キリストが私たちの内に宿っているということを心の底から受け止めます。そこに私たちの絶大な価値があります。そして私たちの思いを超えた力の源がそこにあります。それは誰からの評価をも関わることのない価値と力ですから、我が内に宿るキリストを汚してはならないことを肝に銘じておく必要があります。

共に苦しい現実の只中にあっても、弱きに打ち捨てられず、なおキリストと共に真実に生きる志を持ち得るものです。2千年の前、キリストは既に来られ、この世に救いがもたらされたことは確かです。そして30数年間この世の生涯を経験された主は十字架へと向かわれ、死にて葬られ、そして三日目に復活された、その救いの道を開かれた主イエス・キリストの御降誕の恵みを覚えるとき、私たちキリストを信ずる者が神の祝福の中に真実に生かされる、その事実があるからこそ、夫々の持ち場立場において十字架を背負い、神の御栄光への道を、ひたすら主に仕えつつ歩んでまいりたいと心から願うものです。

祈りを献げます。

恵み深き父なる御神さま、日々の招きに感謝致します。この世での歩みは多くの悩みや苦しみ、また人々の搾取によって困難に巻き込まれること否めません。どうか私たち自身が、そのようにあなたから逸脱した行為や考えをもってこの世に立つことがないように正しき道に歩ませてください。目先の人間的な思いに心を奪われることなく、信実にあなたに伝えていく者、仕えていくことが出来ますように、御心に適う中に引き戻してください

い。きれいごとで片づけることなく、責任をもってあなたに従う者として正しき信仰の道に歩み、この世での使命を全うすることが出来ますように。

キリストの福音を信実に受け留め、宣教に業を担っていく諸教会の祈りと共に、尊き主の聖名によって御前にお献げ致します。アーメン。

讃美歌・288「恵みにかがやき」

献金・感謝(勝倉達)・主の祈り(讃美歌21 93-5A)

主なる御神、秋の気配が次第に深まる11月の第二主日の朝に、あなたの深き御愛、大きな御憐れみと御慈しみによって、再び私どもを御堂に集め、またライブ配信により礼拝に与る教会の肢々と共に献げる恵みと喜びとお与えくださいましたことを心より感謝致します。そして今、私どもを講壇より“これは我が選^ひびたる子なり、汝ら之に聴け”と御言葉を豊かに聴き、再びこの世へと遣わされようとしています。どうか私共が夫々遣わされる馳場々々において、御子キリストに従うものとして召された者に相応しく歩み行く力を、お与えくださいますように切に願ひ上げます。

今日、この礼拝に集うべくして集い得ない教会の肢々の上にあなたが豊かに臨んでくださいますように切に願ひ上げます。

私どもは日々暮らして行く糧を豊かに賜っております。今、その内から献身と感謝の徴として御前にお献げ致しました物を、どうか聖めて御用のためにお用い下さいますように切に願ひ上げます。

再び一巡りの日々へと歩み出そうとする今、主の教えられた『主の祈り』と共に祈り献げ、その歩み出しとさせていただきますように切に願ひ上げます。…アーメン。

派遣・讃美歌88「心に愛を」

派遣・祝福:主イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき交わりが、ここから遣わされていくあなたがた一同と共に、今後も永遠にあるように。アーメン。

報告:(週報追記) (1)臨時総会議案書配布遅延のお詫び、(2)次週特別伝道礼拝と拡大求道者会案内、(3)礼拝当番アンケート調査への協力要請、(4)ボックス配布「創立100周年記念礼拝スナップ写真」取得の案内(教会ホームページ「教員専用ページ」上アップのオンラインアルバムから各自ダウンロード、プリントアウトが可能に)、(5)北支区新年礼拝(1/13)案内、(6)支援特別委(ボックス配布「通信」の案内、チャリティーコンサート・チケット販売協力、バジルソース販売)。

後奏:「いかなる禍い、我らにせまるとも」(J. プレトリウス)